

## 03 自主保全士検定試験 企業の取り組み事例

テイカ製薬株式会社 生産本部 米澤 忍 氏



# 自主保全活動への取り組み

## はじめに

弊社における自主保全活動への取り組みについて紹介いたします。

弊社での改善活動は『5S活動』として2014年度より開始しました。改善活動はそれまでも行ってきましたが、一旦原点に立ち返るために基本の5Sを押えることとしました。なお、弊社では『5S』を『整理』・『整頓』・『清掃』・『清潔』・『習慣』と解釈しています。一般に最後のSは『躰』ですが、『躰』という言葉には上位から下位へのニュアンスが強いため、自分自身で身につけていく『習慣』としています。

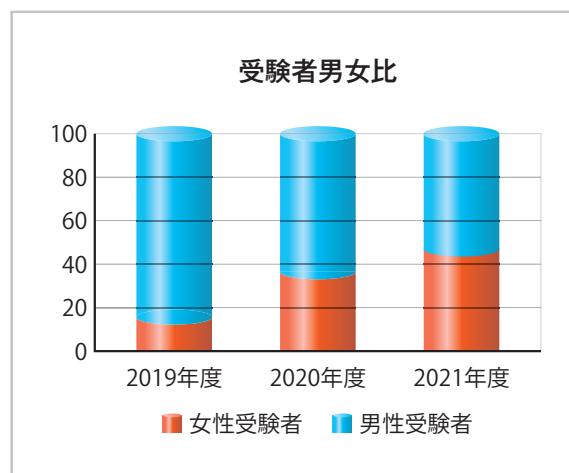
この5S活動も数年を経て定着してきたことから、次の段階としてより設備に特化したものへの移行を模索しました。この時に『自主保全』および『TPM』という言葉を知り、2019年度より『TPM活動』として新たにスタートさせました。評価指標は一般的な『時間稼働率』、『性能稼働率』、『良品率』ですが、まずはこれらの用語を社内に浸透させる必要があり、その方法の一つとして製造部門を中心に自主保全士を受験することにしました。

## 受験サポート

受験のサポートとして、市販テキストの配布、エンジニアリング会社による短期受験対策セミナーの社内実施および受験申請などの事務手続きの会社一元対応などを行っています。

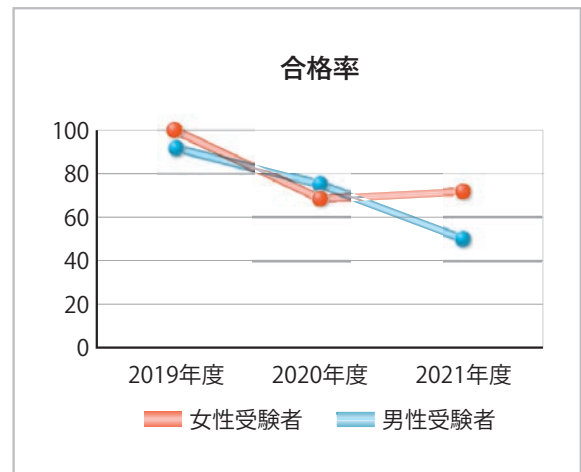
結果として、初年度の2019年度は受験者31名中29名、続く2020年度は43名中32名、2021年度は30名中20名が合格しました。

初年度の2019年度は管理職や製造工程の責任者を中心に受験することにしたましたが、製造現場の女性リーダーにも受験を勧めました。弊社製造部門は約75%が女性であり、女性の能力向上が製造部門の業績向上に欠かせないと考え



たからです。家庭での仕事も多いため受験勉強の時間も取りにくかったと想像されますが、受験した女性全員は見事合格し、弊社にとって先駆けとなりました。その後の女性受験者増加にも繋がり、合格率は男性を上回るようになりました。とても単純なことです。が、受験の合格は自信に繋がり、モチベーションの向上、周りへの良い影響となったものと思います。

もちろん、前述のとおり受験の目的は資格を得ることではなく、受験勉強を通じてTPMに必要な知識を得ることです。そのため、合格には至らなかった受験者も一定の知識は得たものと考えられます。



## 設備保全

自主保全士の受験によって知識を得ることはできても実際の保全作業にはスキルが必要です。そのため、エンジニアリング会社に依頼して実地の整備に関するセミナーを開催し、故障機器の修理方法などを学んでいます。その成果としてこれまで故障した場合に買い替えていた機器も分解修理ができるようになり、経費削減につながっています。さらに製品ごとの設備の型替え作業の動画を手順書に紐づけるシステムを検討しており、作業精度や作業時間の均一化にも取り組んでいます。



自主保全活動風景

## おわりに

自主保全士の受験では自分の時間を削って勉強に充てる必要があります。しかし、合格時には自信やモチベーションアップに繋がり、合格には至らなくても受験勉強を通じて学ぶTPMや工程改善などの知識は製造部門にとって価値のあるものです。

今後も自主保全の知識と現場スキルを両輪として『設備に強いオペレーター』を一人でも多く育成していきたいと考えています。